

研修議事録

日 時	平成30年5月28日（月）14時～17時	場 所	堺市産業振興センター
参加人数	64名	講師名	寺見 陽子 氏
テーマ	乳児の発達と保育		

◎乳児保育の意義と課題

地域家庭の子育て力の低下と保護者の子育て不安、仕事と子育ての両立支援と多様な保育展開

→保育には保育者だけではなく保護者とともになることが大切である。働きながらの子育てが当たり前となっていく中で子育て支援が必要となってくる。

不適切な養育・虐待

→乳児に受けた虐待は、大人になっても孤立・停滞・絶望などを引き起こす。

◎乳児保育の必要性和重要性

人間の障害発達における乳児期の意義

→乳児にはつながりが大切である。言葉かけややり取りしながらあやすことによって少しずつコミュニケーションがとれるようになっていく。

育ちの相互性（下図参照）

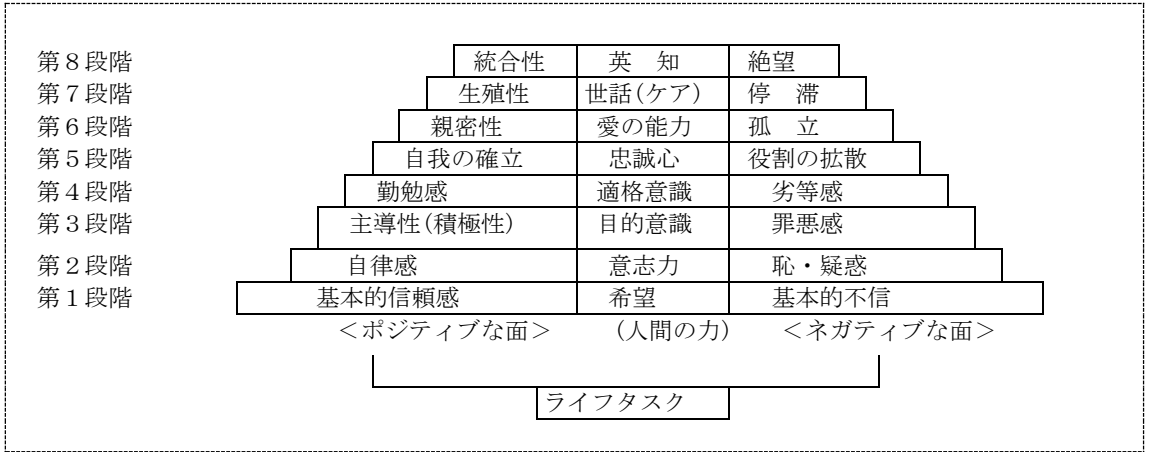


図 人間性の発達段階とライフタスク及び人間の強さ（エリクソン、EH）

この図で例えると第一段階の子どもを育てるには、第6・7段階の大人が必要である。

認知的育ち（関係性）と自我の芽生え（意図性）

養育者とのやり取りと身体的・情動的コミュニケーション

→コミュニケーションの原理として自分自身はするものであり

されるものである。あやす・あやされる関係から言葉の獲得や発達、そして人とのコミュニケーションの取り方につながっていく。

子どもの発達とは何か・・・

→年齢・月齢に応じたスタイルで関係性をつくることである。共通感覚・共有感覚が愛着信頼関係へとつながり大切である。

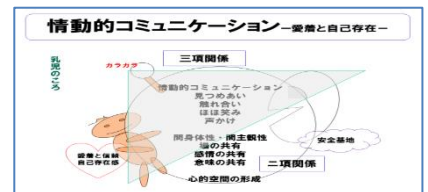
◎乳児の発達を支える保育の内容

(1) 0歳児の保育のねらいと内容

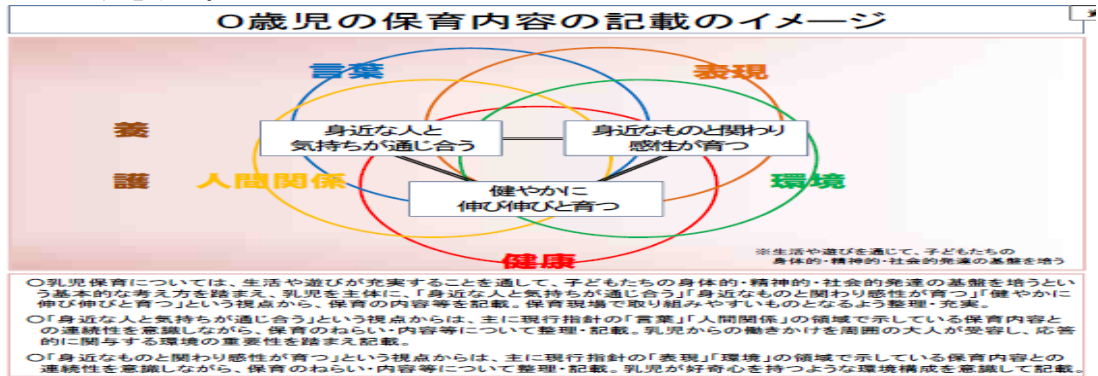
1) 基本的事項

ア 乳児期は、視覚、聴覚などの感覚や、座る、はう、歩くなどの運動機能が著しく発達し、特定の大人との応答的な関わりを通じて、情緒的な絆が形成されることを踏まえ、愛情豊かに、応答的に乳児を保育する。

イ 乳児保育の「ねらい」及び「内容」については、身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」、社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」及び精神的発達に関する視点「身近なものとの関わり感性が育つ」ことを視点とする。



ウ 養護における「生命の保持」及び「情緒の安定」に関わる保育の内容と、一体となって展開されるものであることに留意する。



→保育をしていくうえで正解不正解は関係ない。感じたことを共有し周りの人に伝えていくことが大切である。

◎乳児を保育する上での留意点

1 健康で安全な生活

健康で安定した生活づくり 清潔と安全の確保 室内環境の整備 感染症や乳幼児突然死症候群 (SIDS) の配慮

2 乳児と周りの関係づくり

身体的存在の発見 視線の動きと追視 手の動きと追視 運動と繰り返しー並べる、積むー崩す、入れるー出す、集めるー広げる 始まりと終わりー内と外、因果

3 環境としての保育士

表情豊かに受容的共感的なかかわりを心掛け、温かい雰囲気の中で過ごす 見守られ安心して自分を表現できるように 保育士としてのつながりを支えに新たな世界に出会い、他の乳児とのかかわりも楽しめるように 保育士にしてもらう体験が行為のモデルとなり自らすることを促すように 保育士が乳児の思いを代弁し、乳児の意図や好奇心が満たされるように

4 自由感・解放感のある応答的な環境

乳児が自分の自己活動を活発に展開できる環境 保育士を基点にして繰り返される物的・人的環境のやり取りが作り出す意味空間 人とモノとの応答的な関わりのもてる環境 自由感や解放感のある和やかな雰囲気

5 個別計画 乳児の発達や生活状況、保護者の生活状況意向の把握

一人ひとり乳児の特性や個別性に応じた、発達過程を見通した長期的目標と短期的目標の設定 保育士のかかわりや援助、それぞれの課題に応じた環境の構成 実践後のエピソード記録の作成とカンファレンス 乳児の育ちや米津計画のねらい及び内容の妥当性、達成度などについて省察し、次の実践に生かして保育の質の向上を図る 保育所内の保育士等の専門職員間での検討と共通理解

◎乳幼児突然死症候群 (SIDS) について

厚生労働省 SIDS 研究班ガイドライン http://mhlw.go.jp/bunya/kodomo/sids_guideline.html より

それまでの健康状態および既往歴からその死亡が予測できず、しかも死亡状況調査および解剖検査によってもその原因が同定されない、原則として1歳未満の児に突然の死をもたらした症候群のことである。主として睡眠中に発症し、日本ではおおよそ出生 6000~7000 人に一人と推定され、生後2か月くらいから6か月に多く、稀には1歳以上で発症する。この診断に際しては、「問診・チェックリスト」(厚生労働省 SIDS 研究班 2012 年版)を活用する。

→保育の現場では、睡眠チェック表にて呼吸の確認をする。赤ちゃんをうつぶせにしない。チェック表の記入の徹底。

子どもの発達や特性を踏まえたうえで、日常的な丁寧なかかわりで行うことが、その子自身の言葉の発達において大切なことであることを改めて再認識できました。

受講した先生方からは、「0歳児担任ですが、日常的に意識した言葉掛けをしています」や「子どもの言葉を引き出すには、保育者のかかわりが重要であることを学びました」とすぐに実践のできる感想をいただきました。また SIDS についても詳しく学びました。

